

港町に避難拠点地が完成！



↑ 港町避難拠点地

東海・東南海・南海地震の三連動地震において、津波浸水被害が予想される港地区では、避難目標地点である弓場池周辺までの距離が遠く、住民から不安の声が上がっていました。

今回整備した避難拠点地までは、国道から直接、標高26メートルの高台まで移動できるようになり、またそこには約1,100人の方の避難が可能です。

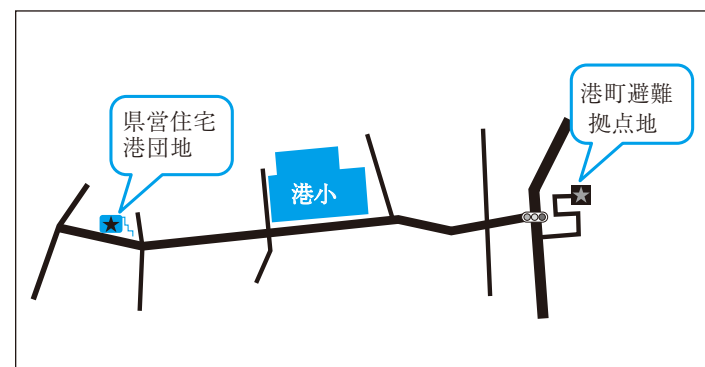
普段は、避難拠点地までの避難道に車での進入はできません。



← 県営住宅港団地津波避難階段

県では、津波からの緊急的な一時避難施設として、県営住宅港団地一号楼の屋上へつながる津波避難階段を設置しました。屋上は地上高16メートルで、約400人避難することができます。

階段は鉄骨造りで、上がり口には、普段扉がありますが、緊急時には破って鍵を開け、登ることができます。



もし、災害発生の一日前に 戻ることができたら・・・

一日前プロジェクト

「一日前プロジェクト」は内閣府が行っている活動です。「もし、災害の一日前に戻ることができたら、あなたは何をしますか」をテーマに、被災者や災害体験者の方々から話を聞き、そこから導き出される様々な教訓を取りまとめています。

- ①被災直後の行動
- ②体験を通じて上手くいったと思うこと、失敗したと思うこと

- ③もう一度災害が発生したならば、次はどのように行動したいか
- ④そのために日頃から何を準備しておけばよかったか

ここでは、その一部を紹介します。「自分だったら」「我が家だったら」というように、自分の身の上に置き換えてみてください。

お財布、保険証、おくすり手帳…… いつものバッグが身の助けに

(平成23年東日本大震災 新地町 60代女性 主婦)

地震が起きたとき、すぐに「逃げなければ」と思いました。避難場所は指定されていたので迷いませんでした。それでも、避難するとき私が持っていたのは、いつも使っている小さなバッグだけでした。家を飛び出すときに、なぜか「そうだ！ 免許証！」とだけはひらめいて、このバッグと一緒にあわてて持ち出したのですが、ほかのことは何一つ考えられませんでした。本当に着の身着のまま、夢中だったのです。

避難後、家はまるごと津波に流されてしまいましたから、手元にはこのバッグ以外残りませんでした。ただ、この中にお財布、保険証、診察券、おくすり手帳などが入れっぱなしになっていたのが幸いでした。薬自体は持ち出せませんでした。後から病院に行って、処方してもらうことができました。保険証や免許証は身分証明書代わりにもあり、後々本当に役に立ちました。大事なものはひとまとめでしておく、いざというときにさっと持ち出せると思います。

欲を言えば、お財布の中にもう少し多めに現金を入れておけばよかったかも。ただし、いったん逃げたら、お金をとりに家に戻ったりしては絶対にいけません。それで亡くなった人がたくさんいるのですから。



「てんでんこ」の意味実感

(平成23年東日本大震災 釜石市 小学4年男子)

授業を受けている途中で地震が来て、いつも避難訓練でやっているように机の下にもぐり、揺れがおさまるのを待ちました。

それから、先生に「避難するぞ！」って言われて、避難場所となっていた近くの高校へ避難しました。

後から母さんが来たけど、「父さんはまだ来ていない」と言われました。ぼくは父さんや家がどうなっているのか気になって、津波を見に行こうとしたけど、母さんに「あぶないから行かないで！」って言われてやめました。

その日は体育館の暗幕を床に敷いて、その上に毛布を敷いて寝ることになりましたが、ぼくは父さんとの連絡がとれずにいたので、あまり良く眠れませんでした。

やっと3日後に父さんが避難場所に来ました。家族がバラバラに避難してきて、なんて言うか、よく教わっていた「津波てんでんこ」だったなと思います。

※「てんでんこ」とは「各自」「めいめい」を意味し、津波が来たらてんでばらばらに逃げるという意味です。

